

知事との県民対話集会（佐久市）概要

- ・開催日時 令和5年10月1日（日） 午前10時30分から正午まで
- ・会場 佐久市市民創錬センター 大会議室
- ・参加者 県民32名、柳田佐久市長、阿部知事、原佐久地域振興局長
- ・テーマ 佐久市の子育て環境について～子育て世代に選ばれるまちを目指して～

・主な発言（要旨）

【参加者】

・0歳児から2歳児までの子どもの保育ニーズが増加しているが、保育士を希望する者が減っている。きつい仕事であるなどの評価に加えて給与が低い。保育の質に見合う給与体系を早急に実現し、保育士が誇りと喜びをもって働けるよう待遇改善が必要である。

【参加者】

・佐久市は、ファミリーサポートセンターや家庭訪問事業等が今後の課題であり、子育て支援メニューを増やしてもらいたいと思う。
・子育て支援に関わる方々の労働環境は厳しいと聞いている。将来、学生たちが子育て支援の世界に関わることができるように、安定的な環境の整備をお願いしたいと思う。

【参加者】

・佐久市には保育園や幼稚園はたくさんあるが、あまり違いがないと感じる。市から委託されている私立保育園であっても、保育士や利用者を引き付ける独自性を出せる幅を広げ、佐久市の保育環境をよりスムーズに動かすことができないか。
・子育てしやすい環境とは、子どもも親も自分の大切なものを大切にできるということだと感じている。

【参加者】

・保育士不足の原因は賃金の問題だけではないと思う。トイレにも行けないような厳しい勤務の状況がある。保育士の配置基準が現状に合っているのか疑問である。未来の保育士が絶望しないよう、その精神的・肉体的負担を軽減してほしい。他県に先駆けて配置基準を見直してもらいたいと思う。

【知事】

・今の保育のあり方をそのままにして、給与だけ上げればいいのかということもあると思う。人手不足の中、限られた人材や資源を有効に活用するため、もっと踏み込んで、抜本的に考えなければならないのではないかと考えている。
・保育士の配置基準については、県や市が決められるものではなく、国が細かいところを決めすぎで、なくした方がいいと思っている。基準を満たせばよいとだけ考え、どうあるべきかの自由な議論ができなくなってしまうと思う。
・本来であれば、例えば、保育士を増やすための費用を示し、他の施策との優先順位も含め、自治トータルの中で検討すべきだが、県や市には権限がなく現状ではできない。そのため、県では、私立だけであるが、国の配置基準を上回る配置に対する補助事業を今年から始めたところである。

【知事】

・研修の受講など一定のルールを設けて、保育士以外の方に保育をサポートしてもらうことについてどう考えるか。

【参加者】

・業務について分担できるところはあると思うが、最終的な責任は保育士が負うことになる。重圧が大きい。

【知事】

・保育士が担い、感じている責任や重圧をどう分担できるか、どうすれば軽くできるか考えていかなければならないと思う。

【参加者】

・過去にボランティアで子どもの見守りをやってみたが長続きしなかった。例えば、市が制度として導入することなどをしないと続かないと思う。子育てに関する知識等が少ない人が保育に関わるという懸念はなくはないが、どうしても人手が不足する場合はそのような取組をしてもよいのではないか。

【知事】

・子どもに向き合うことは責任があり、大変な仕事であるため、誰でもよいという話ではないが、子育て経験のある方に一定の研修を受けて携わってもらうなど、しっかりした仕組みがあれば考える余地はあるのではないかと思う。

【参加者】

・次のような取組で性別役割意識の思い込みを解消し、楽しみながら育児と仕事を両立ができる環境を整えば、家族にとってよりよい役割分担となり、育児休暇取得率の増加につながると考える。

- ① 男性も、マーク等により育児期間中であることをアピールし、定時帰宅の促進やオーバーワークの防止を図る。
- ② 地域の子ども支援施設等に料理教室を設けるなど、子育てを地域で支えるサポートを提供する。

【知事】

・何かを変えていくためには、変えようとする意識と変えるためのスキルが必要であると思う。育児中であることを知らせるマークで意識を変え、育児スキルの一つとして料理等を学ぶというよいご提案をいただいた。県においても育児休業取得率の向上を目指しており、そこに活かしていきたい。

【参加者】

・遊べる場所等は近年充実しているが、街中など意図されていない場所での遊びや学びができなくなっている。子どもが自由に遊び、学べる社会になり、地域住民がみんな子どもを育む必要があると思う。

【知事】

・県も意識しなければならない視点と認識している。森林づくり県民税を使ってやまほいくのフィールド整備に取り組んでおり、誰でも入れる森をもっと増やしていきたい。
・道路は車優先だが、ゼロカーボン社会にしていくことを考えれば、歩いて楽しめる歩行者天国を増やすなど、いろいろな人が使える共有の財産にしていきたい。

【参加者】

・地域おこしに取り組んでいる方や移住者等が個人の立場で子育てイベント等を行っているが、これらの情報も、佐久市の子育て情報と一緒に発信してもらえれば、子育て世代の親や子どもがもっと楽しんで、また、地域で子供を育てていくことにつながっていくのではないか。

【知事】

・県民総参加で子育てするという意味でも、行政以外の取組も含めて自由な情報交換や共有が必要と認識している。情報の共有や発信の仕方を問題意識をもって考えていきたい。